

(学校番号091) 令和4年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【和土小学校】

4月11日		
目標・策		
知識・技能	R3年度全国学力・学習状況調査、R元年度さいたま市学習状況調査の自校結果より国語・算数の「知識・技能」において1pt向上させる。	⇒ 「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。その際児童の学習履歴から個別に指導を行う。また、全学年において、算数の学習をT・Iで行う。また、練習問題(適応問題)に取り組む時間も確保する。
思考・判断・表現	R3年度全国学力・学習状況調査、R元年度さいたま市学習状況調査の自校結果より国語・算数の「思考・判断・表現」において1pt向上させる。	⇒ 授業において課題解決の見通しをもつ場面を設定し、「さいたま市『アクティブラーニング』型授業」を行う。オクリンクやムーブメントを活用し、協動的な学びの場を設定する。算数学習において、「和土小算数の授業スタンダード」に継続して取り組む。
主体的に学習に取り組む態度	R3年度さいたま市学習状況調査「家で計画を立てて勉強をしていますか。」の質問項目において、肯定的な回答が6割を超える程度であった。R4年度は、肯定的な回答の割合を7割にする。	⇒ 授業中に「振り返り」を位置付け、児童が自らの学びを記録することにより、自己の振り返りができる時間を設定する。「和土小家庭学習の目標」を配付し、家庭学習の継続と充実を図る。

9月2日		
中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
知識・技能	算数においては、目標に届かなかったため、方策を追加し、さいたま市学習状況調査において、R元年度さいたま市学習状況調査と比較し、1ptの向上を目指す。	⇒ 算数科において、各学年の教室前面に学習コーナーを設け、日常的に児童が確認できるようにし、基礎・基本の定着を図る。また、授業の始めに前時の振り返りを行う。全教員で今年度全国学力・学習状況調査を分析し、各学年の指導について確認・見直しを行う。
思考・判断・表現	国語、算数において、目標に届かなかったため、方策を追加し、さいたま市学習状況調査において、R元年度さいたま市学習状況調査と比較し、1ptの向上を目指す。	⇒ 単元の最初の時間に、既習事項についてより丁寧に扱い、児童がその後の学習に活用できるようにする。全教員で今年度全国学力・学習状況調査を分析し、各学年の指導について確認・見直しを行う。
主体的に学習に取り組む態度	年度当初に掲げた目標値を上回ることができた。	⇒ 更に児童が主体的に学習に取り組めるよう、家庭ともこまめに連携を図るとともに、個々への指導を継続する。

8月31日	
全国学力・学習状況調査結果	
全国学力・学習状況調査結果・分析	
R4年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果と比較したところ、国語+1.8pt、算数-4.6ptであった。今年度については、国語、算数、理科の3教科で全国平均を下回った。算数では、「百分率で表された割合を分数で表すこと」や「数量が変わっても割合は変わらないこと」など基礎・基本の定着に課題が見られた。	
R4年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果と比較し、国語-0.9pt、算数-0.9ptであった。今年度については、国語、理科は全国平均を上回ったが、算数は全国平均を下回った。3教科共通して、「情報や結果を基に自分の考えをまとめること」については定着が図られている。一方で知識の定着に課題が見られる。	
R4年度全国学力・学習状況調査「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の質問項目において、肯定的な回答が76.5%であった。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問項目において、肯定的な回答が94.1%で、全国平均を大きく上回っていた。また、「PCなどのICT機器を使用している」(質問項目32~36)肯定的な回答も全国と比較して大きく上回っていた。ICT機器のより効果的な活用により学習活動を活性化させると共に、アクティブラーニング型授業による「協動的な学び」の充実を図る。	

2月17日			
さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	R4年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、市平均と比較して、R元年度調査より国語-8.4pt、算数-5.8ptであった。国語の主語と述語を捉える問題に課題がある。算数では数量の関係を表した図と式を関連付けて読み取ることに課題がある。教科への興味関心については、肯定的な割合が、国語は市平均より下回ったが、算数は市平均を上回った。	小4	R4年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、市平均と比較して、R元年度調査より国語-16.1pt、算数-2.7ptであった。国語の主語と述語を捉える問題に課題がある。算数では整数倍にあたる二つの数量関係の場面と図を関連付けることに課題がある。教科への興味関心については、肯定的な割合が、国語は市平均より下回ったが、算数は市平均を上回った。
小5	R4年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、市平均と比較して、R元年度調査より国語+0.2pt、算数+8.2ptであった。国語の主語と述語を捉える問題に課題がある。算数では総合グラフから特徴を読み取ることに課題がある。教科への興味関心については、肯定的な割合が、国語は市平均より下回ったが、算数は市平均を上回った。	小6	R4年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、市平均と比較して、R元年度調査より国語-3.2pt、算数+1.0ptであった。国語の書くために集めた材料を関連付け、伝えたいことを明確にすることに課題がある。算数では示された場面において、目的にあった数の処理の仕方を考察することに課題がある。教科への興味関心については、肯定的な割合が、国語は市平均より上回ったが、算数は市平均を下回った。

2月17日		
成果指標に対する達成状況		
	評価(※)	
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R3年度全国学力・学習状況調査より、国語-0.9pt、算数-0.9pt全国平均より下回った。R4年度さいたま市学習状況調査算数「知識・技能」において、R元年度より、小3-5.8pt、小4-2.7pt、小5+8.2pt、小6+1.0ptであった。	B
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R3年度全国学力・学習状況調査より、国語-0.9pt、算数-0.9ptであった。国語は全国平均を上回ったが、算数は下回った。R4年度さいたま市学習状況調査算数「思考・判断・表現」において、R元年度より、小3+0.3pt、小5+7.3ptであった。	B
主体的に学習に取り組む態度	R4年度さいたま市学習状況調査質問項目「授業中、先生や友達のを、きちんと聞いていますか」において、どの学年も肯定的な回答の割合が90%以上、「授業中、分らないことがあったとき、先生に聞くことができますか」において、肯定的な回答の割合が95%以上で、市の平均を上回った。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」において肯定的な回答の割合が、5年91.7%、6年75.9%で市の平均を上回った。また、「ICTを活用した学び」の項目においては、肯定的な回答の割合が、ほとんどの項目において市の平均を上回った。	A

3月10日	
次年度への課題と改善策	
知識・技能	個人差が大きいことから、個別に必要な支援を講じていく必要がある。「ドリルパーク」等個別に蓄積されたデータを効果的に生かす方法を検討していきたい。また、次年度の学力向上目標としては、国語の主語・述語に一部の学年では改善が見られたが、全体としては課題がある事から、「言葉の特徴や使い方に関する事項」を全学年で重点的に取り組んでいきたい。
思考・判断・表現	国語の集めた情報の関連付け、算数の数量喚起と図の関連付けなど、特徴を読み取ることに課題が見られた。教科横断的視点として、グラフ等の資料を用いる際、「どのような視点で」「どのような単位で」などを意図的に問い、資料の見方を高めていく。また、各教科の授業で、根拠資料をもとに、自己の考えをまとめる活動を取り入れていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	5、6年生の質問事項「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」において、肯定的な回答の割合が100%、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」において、肯定的な回答の割合が80%以上であったので、このことは維持しながら、話し合い活動や学習の振り返りを行うことにより、考えを深めたり広げたりする活動を充実させる。さらに、ICTを活用した振り返りの実施や記録の蓄積を図り、主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。

※評価
 A 8割以上(達成) C 4割以上(あと一歩)
 B 6割以上(概ね達成) D 4割未満(不十分)